

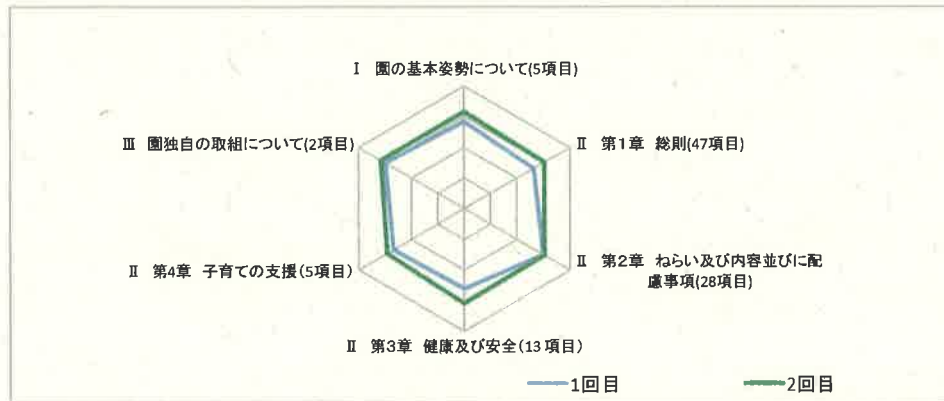
<評価方法>

十分理解できている(十分にできている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果(チェック2回分)

園名		糸満市立 喜屋武こども園				園長 仲宗根愛利			
チェックした日付		1回目				2回目			
評 価		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×
Ⅰ 園の基本姿勢について(5項目)		33	57	0	0	57	33	0	0
Ⅱ 第1章 総則(47項目)		215	581	49	0	482	339	25	0
第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項(28項目)		97	456	57	0	294	186	24	0
第3章 健康及び安全(13項目)		66	149	13	0	141	85	9	0
第4章 子育ての支援(5項目)		25	62	3	0	44	42	4	0
Ⅲ 園独自の取組について(2項目)		16	21	0	0	25	10	0	0

レーダー



【所見】

[成果]

- ・各担任を中心に一人一人に合った援助や配慮等の必要性を共通理解するとともに支援体制について話し合い、全職員で連携しながらかかわることができた。
- ・園内研修では各クラスの公開保育や市内保育施設職員が参加しての研修会等で、講師を招聘し、全職員で保育を振り返り、各年齢の遊びや生活を楽しめる環境の工夫と援助について意見交換し、本園の良さや課題を再確認できた。
- ・幼小連携や地域交流等、地域との連携、協力を通じ、地域の伝統文化や人とつながる機会に触れ、豊かな体験につながった。

[課題]

- ・園の基本姿勢やねらい及び内容等については教育・保育要領とのつながりを意識し、保育を行う必要がある。
- ・各年齢の発達の実情とその時期にふさわしい生活や活動を経験する保育の展開の工夫。
- ・災害危機管理について、マニュアルの確認を行い、安全な対応について全職員で考え、取り組む。

[改善点]

- ・教育・保育要領の各年齢のねらい及び内容、教育計画の読み合わせと確認をしながら、園児が主体的に遊べる保育を行う。
- ・園児の日々の様子の伝達、教育・保育の意図などをドキュメンテーション等を用いて保護者と相互理解を図れるよう工夫する。
- ・基本的生活習慣の定着が図れるよう、家庭と連携した取り組み方を工夫する。
- ・災害危機管理について、定期的に全職員で避難経路や持ち出し物の確認を行い、安心安全を考えた避難訓練を実施し、職員の危機管理意識を高める。